



Systemwalker Software Configuration Manager



ミドルウェア・パラメーター設定ガイド

Windows/Linux

J2X1-7567-01Z0(01) 2012年2月

まえがき

本書の目的

本書は、Systemwalker Software Configuration Managerのミドルウェア・パラメーターの設定について説明しています。

本書の読者

本書は、Systemwalker Software Configuration Managerのミドルウェア・パラメーターの設定を行う方を対象としています。 本書を読むにあたっては、以下の知識が必要です。

・使用するOSに関する基本的な知識

本書の構成

本書の構成は、以下のとおりです。

第1章 概要

Systemwalker Software Configuration Managerのミドルウェア・パラメーターの設定の概要について説明しています。

第2章 ミドルウェア設定手順

Systemwalker Software Configuration Managerの出荷後に追加されたミドルウェアに対する、ミドルウェア・パラメーターのミドルウェア設定手順について説明しています。

付録A ソフトウェア情報

Systemwalker Software Configuration Managerの出荷後に追加されたソフトウェア情報について説明しています。

付録B 予約済ソフトウェア設定ID

Systemwalker Software Configuration Managerの出荷後に追加された予約済ソフトウェア設定IDについて説明しています。

本書の表記

本マニュアルでは、使用している名称、略称、および記号については、『マニュアル体系と読み方』の「マニュアルの表記について」を 参照してください。

オペレーティングシステム表記

本書では、オペレーティングシステムを以下のように略記しています。

正式名称	略称	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V	Windows Server 2008	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise	Windows Server 2008 R2	Windows
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition	Windows Server 2003 R2	
Red Hat(R) Enterprise Linux(R) (for x86)	RHEL (x86)	DHEI
Red Hat(R) Enterprise Linux(R) (for Intel64)	RHEL (Intel64)	KILL

輸出管理規制について

本書を輸出または提供する場合は、外国為替、外国貿易法、および米国輸出管理関連法規などの規制をご確認のうえ、必要な手続きをおとりください。

商標

- Adobe、Adobe Reader、およびFlashは、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社)の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
- ・Interstage、ServerView、Symfoware、およびSystemwalkerは、富士通株式会社の登録商標です。
- ・ Linuxは、Linus Torvalds氏の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Microsoft、Internet Explorer、Hyper-V、Windows、およびWindows Serverは、米国 Microsoft Corporationの米国およびその他の 国における登録商標です。
- Red Hat、RPM、およびRed Hatをベースとしたすべての商標とロゴは、Red Hat, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- VMware、VMwareロゴ、Virtual SMP、およびVMotionは、VMware,Incの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ Xen、XenSourceは、米国およびその他の国で XenSource, Inc. の登録商標または商標です。
- その他の会社名および製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。

なお、本書では、システム名または製品名に付記される登録表示((TM)または(R))は、省略しています。

出版年月および版数

版数	マニュアルコード	
2011年 4月 第1版	J2X1-7567-01Z0(00)	
2012年 2月 第1.1版	J2X1-7567-01Z0(01)	

お願い

本書を無断で他に転載しないようお願いします。 本書は予告なしに変更されることがあります。

著作権

Copyright 2011-2012 FUJITSU LIMITED

変更履歴

変更内容	変更箇所	版数
製品ごとに参照するマニュアルを記載しました。	1.1	第1.1版
以下の製品の説明を追加しました。	2章	
Interstage Application Server/Web Server		
Interstage Service Integrator		
「テンプレートの登録準備」として、参照するマニュアルの説明を追加しました。	2.2.2	
	2.3.2	

変更内容	変更箇所	版数
	2.4.2	
以下の製品の情報を追加しました。	付録A	
Interstage Application Server/Web Server		
Interstage Service Integrator		

目次

第1章 概要	
1.1 対象	1
第2章 ミドルウェア設定手順	2
2.1 Interstage Application Server/Web Server	
2.1.1 ミドルウェア個別処理(L-Server作成時編)	
2.1.1.1 インストール	
2.1.1.2 インストール後の操作	
2.1.1.3 コマンド出力メッセージ	
2.1.2 テンプレートの登録準備	
2.1.3 パラメーター設定情報	
2.1.4 出力メッセージ	
2.1.5 ミドルウェア個別処理(配備後編)	
2.1.5.1 Java EEを使用する場合	
2.1.5.2 Interstage HTTP Serverを使用する場合	
2.2 Interstage Business Process Manager Analytics	18
2.2.1 ミドルウェア個別処理(I-Server作成時編)	18
2.211 インストール	18
22111 1 2010 2010 2010 2010 2010 2010 2	18
222 テンプレートの登録進備	18
2.2.2 パーン - パン	19
2.2.5 ジジンシージー (次元) 1 (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	20
2.2.1 国 パック こ (1) 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	20
2.2.5 (1) デージョンソール	20
2.2.5.1 足が自主 マング パー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	21
2.2.5.2 (Windows]	21
2.3 Interstage Interaction Manager	27
2.5 merstage meration tranger 2315ドルウェア個別処理(I-Server)作成時編)	22
2.3.1 インストール	22
2.3.1.1 (シントーン) 2312 インストール後の 場作	22
2.3.1.2 10 パーク 後の採用	22
2.3.2 パラメーター設定信報	22
2.3.5 (ワ) クレージ	23
2.3.4 回/// ノビーマーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー	23
2.4 Interstage List Creator Connector	23
2.4 Intristage List Creator Connector	
2.4.1 インストール	23
2.4.1.1 インストール ※の場佐	
2.4.1.2 インバール 及の採用	
2.4.2 / シノレー 100 豆螺 牛哺 2.4.3 パラメーター 設定 信却	
2.4.3、ソケーケー び 2.4.4 出力 メッセージ	
2.4.4 田/J/ソビーン 2.4.5 ミドルウェア個別加理(配備後編)	
2.4.5 < Interstage Service Interretor	
2.5 Interstage Service Integrator	
2.5.1 (パクタエア 回加及2.5.1 C) (P) (P) (P) (P) (P) (P) (P) (P) (P) (P	
2.5.1.1 1 / (1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1	/ د 72
2.3.1.2 インヘト ル後の採用	
2.5.2 / マノレー「ツヱ」「ツヱ」」 2.5.2 パラメーター	ן כ ריכ
2.5.5 (ソノクークー 以足目刊	
2.5.4 山刀/ツビーン	
2.3.3 、 ドルソユノ 回力リアビ生(自じ)用1夜7冊)	
付録A ソフトウェア情報	
付録B 予約済ソフトウェア設定ID	40

第1章 概要

本章では、Systemwalker Software Configuration Managerのミドルウェア・パラメーター設定の概要について説明します。

1.1 対象

本書では、製品の出荷後に追加されたミドルウェアのパラメーター設定方法を記載しています。

Systemwalker Software Configuration Manager V14gで登録されるミドルウェアについては、以下を参照してください。

- ・『運用ガイド』の「オペレーティングシステム・ミドルウェア個別処理(L-Server作成時編)」
- ・『運用ガイド』の「オペレーティングシステム・ミドルウェア個別処理(配備後編)」
- ・『リファレンスガイド』の「パラメーター設定情報」
- ・『リファレンスガイド』の「登録済ソフトウェアID」
- ・『リファレンスガイド』の「予約済ソフトウェア設定ID」

Systemwalker Software Configuration Manager V14gのソフトウェアパラメーター設定機能(ServerView Resource Orchestrator連携編) で登録されるミドルウェアについては、以下を参照してください。

- ・「オペレーティングシステム・ミドルウェア個別処理(L-Server作成時編)」
- ・「オペレーティングシステム・ミドルウェア個別処理(配備後編)」
- ・「ミドルウェア・パラメーター設定情報」
- ・「ソフトウェア情報およびソフトウェアID」
- ・「ソフトウェア設定ID」

Systemwalker Software Configuration Manager V15gのソフトウェアパラメーター設定ガイドで登録されるミドルウェアについては、以下 を参照してください。

- ・「オペレーティングシステム・ミドルウェア個別処理(L-Server作成時編)」
- ・「オペレーティングシステム・ミドルウェア個別処理(配備後編)」
- ・「ミドルウェア・パラメーター設定情報」
- ・「ソフトウェア情報およびソフトウェアID」
- ・「ソフトウェア設定ID」

第2章 ミドルウェア設定手順

本章では、Systemwalker Software Configuration Managerの出荷後に追加された各ミドルウェアの、ミドルウェア・パラメーター設定について説明します。

各ミドルウェアについて、以下の手順で説明しています。

- ・ ミドルウェア個別処理(L-Server作成時編)
 各ミドルウェアで、L-Server作成時に必要となる作業です。
- テンプレートの登録準備

各ミドルウェアで、テンプレートの登録前に必要となる作業です。

・ パラメーター設定情報

各ミドルウェアで、ソフトウェア設定情報をカスタマイズする場合に必要となる情報です。

- ・ 出力メッセージ
 パラメーター設定情報をカスタマイズする場合に、出力されるメッセージです。
- ・ミドルウェア個別処理(配備後編)
 各ミドルウェアで、仮想システム配備後に必要となる作業です。

2.1 Interstage Application Server/Web Server

2.1.1 ミドルウェア個別処理(L-Server作成時編)

Interstage Application Server/Web Serverをインストールする場合、以下の操作が必要です。

2.1.1.1 インストール

• サーバタイプ選択

インストール時のサーバタイプは「アプリケーションサーバ機能をインストールする」を選択してください。

・ Java EE 6機能はテンプレートに対応していないため、インストールしないでください。

Java EE 6機能は、V10.1からの提供機能です。



《L-ServerがLinuxの場合》

『Interstage Application Server インストールガイド(Linux版)』の「他の富士通製製品導入に関する注意事項」を参照して対応してください。

2.1.1.2 インストール後の操作

作成した「L-Server」において「クローニングマスタの採取」を行う前に、以下を行う必要があります。



Interstage Application Serverのパッチ適用

《L-ServerがLinuxの場合》

Interstage Application Serverのホスト情報変更を行う場合、PG78174のInterstage Application Serverの以下のパッチを適用する必要があります。

「L-Server作成終了処理」を行う間までに適用してください。

- Linux(x64)版 Interstage Application Server Enterprise Edition/Standard-J Edition V9.3.0またはV9.2.0を使用する場合は T004049LP-02以降を適用してください。
- Linux(32bit)版 Interstage Application Server Enterprise Edition/Standard-J Edition V9.3.0またはV9.2.0を使用する場合は T004556LP-02以降を適用してください。
- Linux(32bit)版Interstage Application Server Enterprise Edition/Standard-J Edition V9.1.0を使用する場合はT002485LP-02以降を 適用してください。
- Linux(32bit)版Interstage Application Server Enterprise Edition/Standard-J Edition V9.0.1を使用する場合はT001444LP-02以降を 適用してください。
- Linux(32bit)版Interstage Application Server Enterprise Edition/Standard-J Edition V9.0.0を使用する場合はT001441LP-02以降を 適用してください。

1. コマンドの複写

作成した「L-Server」に、システムを配備する際にInterstage Application Serverのホスト情報を変更するために必要なコマンドを 複写します。

【管理サーバがWindowsの場合】

《L-ServerがWindowsの場合》

- 複写元

<Systemwalker Software Configuration Managerインストール先>¥softtools¥windows¥aps9 または

<ServerView Resource Orchestratorインストール先>¥RCXCFMG¥softtools¥windows¥aps9

- 複写先(L-Server内)

<Interstage Application Serverインストール先>¥bin

- 複写するコマンド

isgethostinfo.bat

issethostinfo.bat

isihsconfigget.bat

isihsconfigset.bat

isswcmexportimg.bat

isswcmimportimg.bat

isswcmPrepService.vbs

isrccrtservicelist.exe

isrcPrepService.vbs

注) 複写先にコマンドが存在する場合は複写する必要はありません。

- 《L-ServerがLinuxの場合》
- 複写元

<Systemwalker Software Configuration Managerインストール先>¥softtools¥windows¥aps9 または

<ServerView Resource Orchestratorインストール先>¥RCXCFMG¥softtools¥windows¥aps9

— 複写先(L-Server内)

/opt/FJSVisas/bin

- 複写するコマンド

iscommands.tar.gz を複写先サーバ内の作業用ディレクトリで解凍してください。 以下のコマンドが展開されますので、コマンドをすべて上記複写先ディレクトリに複写してください。 isgethostinfo isihsconfigget

- isihsconfigset
- isswcmexportimg
- is swemimportimg
- isswcmsvcoff
- isswcmsvcresrv
- isswcmsvcstart

【管理サーバがLinuxの場合】

《L-ServerがWindowsの場合》

- 複写元

/opt/FJSVcfmg/softtools/windows/aps9

- 複写先(L-Server内)

<Interstage Application Serverインストール先>¥bin

- 複写するコマンド
 - isgethostinfo.bat
 - issethostinfo.bat
 - isihsconfigget.bat
 - isihsconfigset.bat
 - isswcmexportimg.bat
 - isswcmimportimg.bat
 - isswcmPrepService.vbs

isrccrtservicelist.exe

isrcPrepService.vbs

注) 複写先にコマンドが存在する場合は複写する必要はありません。

- 《L-ServerがLinuxの場合》
- 複写元

/opt/FJSVcfmg/softtools/linux/aps9

- 複写先(L-Server内)

/opt/FJSVisas/bin

- 複写するコマンド

iscommands.tar.gz

本ファイルを複写先(L-Server)サーバの作業用ディレクトリに複写してから展開してください。

以下のコマンドが展開されますので、このコマンドをすべて上記複写先(L-Server内)ディレクトリに複写してください。 isgethostinfo

issethostinfo

isihsconfigget

isihsconfigset

isswcmexportimg

isswcmimportimg

isswcmsvcoff

isswcmsvcresrv

isswcmsvcstart

複写したコマンドが出力するメッセージについては、「2.1.1.3 コマンド出力メッセージ」を参照してください。

上記以外のコマンドが出力するメッセージについては、『Interstage Application Server マニュアル』を参照してください。

🔟 参考

issethostinfoコマンドおよびisihsconfigsetコマンドの実行について

issethostinfoコマンドおよびisihsconfigsetコマンドは、本製品で配備したシステムにおいて自動的に実行されるコマンドです。 そのため、ユーザーが直接実行する必要はありません。

2. ユーザーアプリケーションを配備する場合

ユーザーアプリケーションを含めたシステムを配備する場合には、Interstage Application Serverに対して、ユーザーアプリケーションの配備を行ってください。

Interstage Application Serverに対するJ2EEアプリケーションの配備については、『Interstage Application Server/Interstage Web Server J2EE ユーザーズガイド』の「J2EEアプリケーションの配備と設定」を、Java EEアプリケーションの配備については、『Interstage Application Server Java EE運用ガイド』の「Java EEアプリケーションの配備」を参照してください。

3. Java EEを使用する場合

Java EEは、Interstage Application Server V9.2.0からの提供機能です。

- メッセージブローカ、Java DBの停止
 - メッセージブローカが起動している場合は、imqcmdコマンドのshutdown bkrサブコマンドでメッセージブローカを停止してください。
 - Java DBが起動している場合は、asadminコマンドのstop-databaseサブコマンドでJava DBを停止してください。

各コマンドの詳細については、『Interstage Application Server Java EE運用ガイド』の「Java EE運用コマンド」を参照してください。

- ハートビートの設定について
 - IJServerクラスタが作成されている環境のテンプレートを作成する場合、IJServerクラスタのハートビートの設定は無効(デフォルトは「有効」)にしてから作成してください。
 - ハートビートの設定を有効とした状態でテンプレートの作成・配備を行った場合、IIOP通信のリクエストが予期しないサーバに振り分けられる可能性があります。
 - ハートビートを使用する場合には、配備後に有効にしてから必要に応じてハートビートアドレスの変更を行ってください。

ハートビート設定の詳細については、『Interstage Application Server Java EE運用ガイド』の「グループ管理サービス」を参照してください。

- メッセージブローカの設定について
 - JMSサービスを使用する場合、テンプレートを作成する前にメッセージブローカのホスト名を"localhost"(デフォルトはインストールしたサーバのホスト名)に変更してください。

- メッセージブローカのホスト名は、以下の定義項目で設定します。

default-config.jms-service.jms-host.default_JMS_host.host server-config.jms-service.jms-host.default_JMS_host.host \${clusterName}.jms-service.jms-host.default_JMS_host.host

- メッセージブローカを変更せずにテンプレートの作成・配備を行った場合、予期しないサーバのメッセージブローカに対してJMSメッセージを送信してしまう可能性があります。

メッセージブローカの詳細については、『Interstage Application Server Java EE運用ガイド』の「JMSサービスの定義項目」を 参照してください。

- 4. Interstage HTTP Serverを使用する場合
 - インストール直後の状態を配備する場合、テンプレートを作成する前に環境定義ファイル(httpd.conf)の ServerNameディレ クティブを"localhost"(デフォルトはインストールしたサーバのホスト名)に変更し、テンプレートの配備後に配備先のサーバ やシステム構成・運用に合わせて、適切な値を設定してください。

適切な値が設定されない場合、リダイレクト動作が正しく処理されず、予期しないサーバに対してリクエストが発生する可能 性があります。

ServerNameディレクティブ変更の詳細については、『Interstage HTTP Server運用ガイド』の「ディレクティブ一覧」を参照してください。

Webサーバのパラメーターは、環境定義ファイル(httpd.conf)を使用して設定します。配備時にパラメーターを設定する場合、 配備先のサーバやシステム構成・運用に合わせた環境定義ファイルを、パラメーターパッケージへ格納してください。配備 先のサーバの環境定義ファイルは、パラメーターパッケージに格納したファイルで上書き・複写されます。

パラメーターパッケージは、テンプレート登録前に、以下のいずれかの方法で作成してください。

- isihsconfiggetコマンドを使用して、L-Server上にある環境定義ファイルから作成(作成方法1)
- isihsconfiggetコマンドを使用せず、任意のサーバ上にある環境定義ファイルから作成(作成方法2)

パラメーターパッケージの詳細については、『リファレンスガイド』の「ソフトウェア設定スクリプトの詳細」および「パッケージファ イルの詳細」を参照してください。

《作成方法1》

isihsconfiggetコマンドを使用して、L-Server上にある環境定義ファイルから、パラメーターパッケージを作成する手順について説明します。

1. 管理者権限で、以下のコマンドを実行してください。

《L-ServerがWindowsの場合》

<Interstage Application Serverインストール先>¥bin¥isihsconfigget -d <任意の格納先ディレクトリ>

《L-ServerがLinuxの場合》

/opt/FJSVisas/bin/isihsconfigget -d <任意の格納先ディレクトリ>

L-Server上に作成・構築されているすべてのWebサーバの環境定義ファイルが、-dオプションで指定した格納先ディレクト リ配下に、以下のディレクトリ形式で格納されます。

《L-ServerがWindowsの場合》

F3FMihs¥<Webサーバ名>¥httpd.conf

《L-ServerがLinuxの場合》

FJSVihs/<Webサーバ名>/httpd.conf

2. Webサーバのパラメーターを変更する場合、配備先のシステム構成・運用にあわせて環境定義ファイルを編集してください。 Webサーバのパラメーターを変更しない場合、Webサーバ名のディレクトリ、および環境定義ファイルは削除してください。 3. Webサーバの環境定義ファイルを編集したあと、作成したパラメーターパッケージは、テンプレートに登録してください。

《作成方法2》

isihsconfiggetコマンドを使用せず、任意のサーバ上にある環境定義ファイルから、パラメーターパッケージを作成する手順について説明します。

Webサーバの環境定義ファイルは、Interstageがインストールされたシステムの以下のディレクトリに格納されています。

《L-ServerがWindowsの場合》

<Interstage Application Serverインストール先>¥F3FMihs¥servers¥<Webサーバ名>¥conf

《L-ServerがLinuxの場合》

/var/opt/FJSVihs/servers/<Webサーバ名>/conf

1. 配備時に、パラメーターを変更したいWebサーバの環境定義ファイルを、以下のディレクトリ形式で格納してください。

《L-ServerがWindowsの場合》

Webサーバ名は、英字の大文字と小文字は区別されません。

F3FMihs¥<Webサーバ名>¥httpd.conf

《L-ServerがLinuxの場合》

Webサーバ名は、英字の大文字と小文字を区別します。

FJSVihs/<Webサーバ名>/httpd.conf

- 2. 配備先のシステム構成・運用にあわせて環境定義ファイルを編集してください。
- 3. Webサーバの環境定義ファイルを編集したあと、作成したパラメーターパッケージは、テンプレートに登録してください。

🐴 参照

L-ServerがWindowsの場合

図2.1 Webサーバ"FJapache"のパラメーターパッケージを作成する場合



図2.2 Webサーバ"FJapache"と"Web01"から"Web15"のパラメーターパッケージを作成する場合



L-ServerがLinuxの場合

図2.3 Webサーバ"FJapache"のパラメーターパッケージを作成する場合



図2.4 Webサーバ"FJapache"と"Web01"から"Web15"のパラメーターパッケージを作成する場合



5. L-Serverイメージ作成前処理

《L-ServerがWindowsの場合》

管理者権限で、以下のコマンドを実行してください。

1. Interstageの停止

<Interstage Application Serverインストール先>¥bin¥isstop -f

2. ホスト情報変更のための前処理

<Interstage Application Serverインストール先>¥bin¥isgethostinfo

《L-ServerがLinuxの場合》

```
スーパーユーザーで以下のコマンドを実行してください。
```

1. Interstageの停止

/opt/FJSVtd/bin/isstop -f

2. ホスト情報変更のための前処理

/opt/FJSVisas/bin/isgethostinfo



Interstage証明書環境にサイト証明書を登録している場合

 - 認証局の運用方針によっては、発行したサイト証明書を別のサーバで利用することを認めていない場合があるため、サイト 証明書を発行した発行局の運用方針を確認しておいてください。

それぞれのサーバが同じサイト証明書を使用できるかどうか、承認局の運用方針に照らし合わせて確認し、できない場合には、サイトごとにサイト証明書を取得してください。

- 9 -



isgethostinfoコマンドの動作について

《L-ServerがWindowsの場合》

isgethostinfo.batコマンドは、下表のサービスに対してスタートアップの種類が自動の場合には手動に、状態が開始の場合には 停止に変更します。

.

Interstage Application Serverをインストールした直後の、サービスのスタートアップの種類と状態のデフォルト値は下表のとおりです。そのため、本コマンドを実行後にサービスの状態を元に戻す場合には、手動で行ってください。

配備したシステムのサービスのスタートアップの種類は、本コマンド実行前の状態となります。状態はスタートアップの種類が自動の場合には開始、手動の場合には停止となります。

なお、本コマンドを複数回実行した場合の配備したシステムのサービスのスタートアップの種類は、本コマンド初回実行時の状態となります。

	インストール直後	
石削	状態	スタートアップ
CORBA/SOAP ClientGW	停止	手動
EventFactory	開始	手動
EventService	開始	手動
FJapache	開始	自動
Fujitsu Enabler (V9の場合) Interstage data store (V10の場合)	開始	自動
FUJITSU ND 負荷計測エージェント	開始	自動
FUJITSU ND Load Mesure Agent	開始	自動
INTERSTAGE	開始	自動
INTERSTAGE API	停止	手動
Interstage Java EE DAS	開始	自動
Interstage Java EE Node Agent	開始	自動(V9の場合) 手動(V10の場合)
Interstage JServlet (OperationManagement)	開始	自動
Interstage Operation Tool	開始	自動
Interstage Operation Tool(FJapache)	開始	自動
Interstage Server Monitor Service	開始	自動
Interstage Server Monitor Service(Cache Manager)	開始	手動
InterfaceRep_Cache Service	開始	手動
InterfaceRep_Cache_e Service	開始	手動
Message Queue 4.1 Broker (V9の場合) Interstage Message Queue Broker (V10の場合)	開始	自動
Naming Service	開始	手動
NS LoadBalancingOption	開始	自動
ObjectTransaction Service	停止	手動
OD_start	開始	手動
TransactionDirector	開始	手動

《L-ServerがLinuxの場合》

isgethostinfoコマンドは、下表のサービスに対してサーバ起動時の自動起動設定が有効なものは無効化に、サービスが起動中のものは停止に変更します。

Interstage Application Serverをインストールした直後のサービスの自動起動設定とサービスの起動状態のデフォルト値は下表の とおりです。そのため、本コマンドを実行後にサービスの状態を元に戻す場合には、手動で行ってください。

配備したシステムのサービスの状態は、本コマンド実行前の状態となります。自動起動設定されていたサービスは起動となります。 なお、本コマンドを複数回実行した場合の配備したシステムのサービスの自動起動設定は、本コマンド初回実行時の状態となります。 サービスの自動起動設定を変更するには、Linuxのシステムコマンドのchkconfigコマンドを使用します。

実行例は以下となります。

chkconfig Enabler on

夕前	インストール直後		
石則	状態	スタートアップ	
Enabler	起動	on	
FJSVsvag	起動	on	
FJSVijdas	起動	on	
FJSVijna	起動	on	
FJSVirep	起動	on	
FJSVsvmon	起動	on	
FJapache	起動	on	
isgui	起動	on	
isjmxstart	起動	on	
startis	起動	on	
startod	起動	on	

2.1.1.3 コマンド出力メッセージ

「L-Server」にInterstage Application Serverをインストールしたときに複写・実行するコマンドの出力メッセージについて、以下に記載します。その他のコマンドのメッセージについては、『Interstage Application Server』のマニュアルを参照してください。

IS: ERROR: is31801: Making the directory was failed(path=%s)

可変情報

%s:ディレクトリパス

意味

ディレクトリの作成に失敗しました。

システムの処理

処理を中止します

ユーザーの対処

可変情報に指定されたパスについて以下の対処を実施してください。

- ファイルとして存在する場合は、ファイルを削除してから再度実行してください。
- ・ 上位ディレクトリに書き込み権限が付加されているか確認し、再度実行してください。

IS: ERROR: is31802: Required command argument is missing

意味

引数が不足しています。

システムの処理

処理を中止します。

ユーザーの対処

コマンド実行時に指定した引数を確認したあと、再度実行してください。

IS: ERROR: is31803: Command argument was invalid (%s)

可変情報

%s:指定した引数

意味

引数に誤りがあります。

システムの処理

処理を中止します。

ユーザーの対処

コマンド実行時に誤った引数が指定されました。引数を確認したあと、再度実行してください。 また、前後にメッセージが出力されている場合は、そのメッセージの対処を行ってください。

IS: ERROR: is31804: There was not authority

意味

実行する権限がありません。

システムの処理

処理を中止します。

ユーザーの対処

```
直前に行ったオペレーションに対する権限がありません。管理者ユーザで実行してください。
また、Systemwalker Software Configuration Manager連携の利用時に出力された場合は、前後に出力されているメッセージ対処を
行ってください。
```

IS: INFO: is31805: %s has been started

可変情報

%s:コマンド名

意味

%sのコマンド処理を開始しました。

IS: INFO: is31806: %s has been finished normally

可変情報

%s:コマンド名

意味

%sのコマンド処理は正常終了しました。

IS: ERROR: is31807: An Error has occurred while processing %s

可変情報

%s:コマンド名

意味

%sのコマンド処理中にエラーが発生しました。

システムの処理

%sのコマンド処理を中止します。

ユーザーの対処

本エラーメッセージの前に出力されたエラーの原因を取り除いて、再度処理を実行してください。 改善されない場合は、iscollectinfoコマンドを使用して調査情報を採取したあと、技術員に連絡してください。

IS: INFO: is31808: [%s] is started

可変情報

%s:サービス名

意味

%sに対する処理を開始しました。

サービス名	サービス資源名
ISCOM	Interstageセットアップ資産
OD	CORBAサービス資産
ISJEE	JavaEE共通資產

IS: INFO: is31809: [%s] was successful

可変情報

%s:サービス名

意味

%sに対する処理は正常に完了しました。

IS: ERROR: is31810: [%s] was failed

可変情報

%s:サービス名

意味

%sの処理は失敗しました。

システムの処理

連携スクリプトの処理を中止します。

ユーザーの対処

『運用ガイド(基本編)』の「バックアップ/リストア」を参照し、本エラーメッセージの前に出力されたエラーメッセージおよびシステム ログのメッセージの対処を行ってください。

IS: ERROR: is31811: A system error occurred(%s)

可変情報

%s:詳細情報

意味

システムエラーが発生しました。

システムの処理

処理を中止します。

ユーザーの対処

以下の詳細情報に応じた対処を行ってください。

本エラーメッセージの前にエラーメッセージが出力されている場合には、その内容も合わせて確認してください。 以下に該当しない詳細情報の場合には、iscollectinfoコマンドを使用した調査情報と下記ディレクリ配下のすべてのファイルを採取 したあと、技術員に連絡してください。

L-ServerがWindowsの場合

%IS_HOME%¥var¥clone¥log

(%IS_HOME%はInterstageのインストールディレクトリ)

L-ServerがLinuxの場合

/opt/FJSVisas/var/clone/log

詳細情報	対処
Environment variable IS_HOME is not set	Interstage Application Serverがインストールされていない環境でコマンドを実行した可能性があります。
	環境を確認してください。
コマンド名 cannot execute on this environment コマンド名: isgethostinfo または issethostinfo	管理サーバ機能をインストールした環境でコマンドが実行された可能性があります。
	環境のサーバタイプを確認してください。
	コマンドは以下のサーバタイプでは使用できません。
	 管理サーバ機能
	・ Web Package機能
Directory does not exist(path={0})	テンプレート作成時にisgethostinfoが実行されていない可能性があ ります。
paul.フラフレー「追い曲号に必要な貨材」が格納されたフォレクトリバス	テンプレート作成手順を確認してください。

IS: ERROR: is31812: Other process is also executing %s

可変情報

%s:コマンド名

意味

他のプロセスが同じコマンドを実行中です。

システムの処理

処理を中止します。

ユーザーの対処

他のプロセスが終了したあと、必要に応じて再度処理を実行してください。

しばらく待ってもメッセージが繰り返し出力される場合、コマンドの多重実行を防止するための制御ファイルが残存している可能性があります。

以下の制御ファイルがある場合は、削除してから再度処理を実行してください。 なお、他のプロセスが実行中の場合は削除できません。

L-ServerがWindowsの場合

%IS_HOME%¥var¥[コマンド名].lck

(%IS_HOME%はInterstageのインストールディレクトリ)

L-ServerがLinuxの場合

/opt/FJSVisas/var/ [コマンド名].lck

「L-Server」にインストールするオペレーティングシステム・ミドルウェアについて、本製品で利用するために配備後に行わなければならない操作・設定について説明します。

2.1.2 テンプレートの登録準備

テンプレートを登録する準備として、以下の作業が必要になります。

- ミドルウェア・パラメーター設定テンプレートをインストールしてください。
- ・ソフトウェア情報の登録(cfmg_addsoft)コマンドで、ソフトウェア情報を登録します。
- ・ ソフトウェア設定情報の関連付け(cfmg_attachsoftsetup)コマンドで、ソフトウェア設定情報とソフトウェアの関連付けを設定します。

ソフトウェア情報のファイル名については、「付録A ソフトウェア情報」を参照してください。

テンプレートの登録については、以下のマニュアルを参照してください。

- Systemwalker Software Configuration Manager V14g 『運用ガイド』の「システムテンプレート登録手順」の「ソフトウェア情報」および「ソフトウェア設定情報」
- Systemwalker Software Configuration Manager V14gのソフトウェアパラメーター設定機能(Server View Resource Orchestrator連携編) 「運用の手順」の「L-Platformテンプレートの作成」
- Systemwalker Software Configuration Manager V15gのソフトウェアパラメーター設定ガイド 「運用の手順」の「L-Platformテンプレートの作成」

コマンドの詳細については、以下のマニュアルを参照してください。

- Systemwalker Software Configuration Manager V14g 『リファレンスガイド』の「テンプレート管理コマンド」
- Systemwalker Software Configuration Manager V14gのソフトウェアパラメーター設定機能(Server View Resource Orchestrator連携編) 「L-Platformテンプレート管理コマンド」
- Systemwalker Software Configuration Manager V15gのソフトウェアパラメーター設定ガイド 「L-Platformテンプレート管理コマンド」

2.1.3 パラメーター設定情報

下記定義ファイルの記述形式については、『Interstage Application Server/Interstage Web Server リファレンスマニュアル (コマンド編)』の「isj2eeadmin」を参照してください。

- IJServer定義ファイル
- ・ J2EEシステム定義ファイル
- ・ J2EEリソース定義ファイル
- ・ Webサーバコネクタ定義ファイル

IJServer(J2EE)の環境設定

No.	パラメーター (設定項目)	ソフトウェフ	P設定情報ファイル	説明
1	ホスト名	<key> キー</key>	hostname	ホスト名を設定します。
		<type> 型</type>	string	
		<value> 設定必須パラメーター のデフォルト値</value>	#{server.os.computername}	
		<label> ラベル</label>	ホスト名	
2	IPアドレス	<key> キー</key>	ipaddress	IPアドレスを設定します。
		<type> 型</type>	string	
		<value> 設定必須パラメーター のデフォルト値</value>	#{server.nic.ipaddress}	
		<label> ラベル</label>	IPアドレス	
3	IJServer定義ファ イル	<key> キー</key>	J2ee.IjserverDefinition	IJServer定義ファイルを更新します。
		<type> 型</type>	string	
		<value> 設定必須パラメーター のデフォルト値</value>	空文字	
		<label> ラベル</label>	IJServer定義ファイル	
4	J2EEシステム定 義ファイル	<key> キー</key>	J2ee.SystemDefinition	J2EEシステム定義ファイルを更新します。 システム構成の情報を変更するI2EEシステム
		<type> 型</type>	string	定義ファイルの <system><web><wwwwueditmode>タグの</wwwwueditmode></web></system>
		<value> 設定必須パラメーター のデフォルト値</value>	空文字	値については変更しないでください。 変更した際に、IJServer定義ファイルで指定し た更新内容の一部が反映されない場合があり
		<label> ラベル</label>	J2EEシステム定義ファイル	ます。
5	J2EEリソース定義 ファイル	<key> キー</key>	J2ee. ResourceDefinition	リソース定義ファイルを更新します。
		<type> 型</type>	string	
		<value> 設定必須パラメーター のデフォルト値</value>	空文字	
		<label> ラベル</label>	リソース定義ファイル	
6	Webサーバコネク タ定義ファイル	<key> キー</key>	J2ee.ServiceDefinition	Webサーバコネクタ定義ファイルを更新します。

No.	パラメーター (設定項目)	ソフトウェア設定情報ファイル		説明
		<type> 型</type>	string	
		<value> 設定必須パラメーター のデフォルト値</value>	空文字	
		<label> ラベル</label>	Webサーバコネクタ定義ファイ ル	

パラメーターパッケージのzipファイルは、以下のようなディレクトリ構成で作成してください。

パッケージファイルについては、『リファレンスガイド』の「パッケージファイルの詳細」を参照してください。

・ L-ServerがWindowsの場合

par	rampkg.zip(任意のファイル名)
+	IJserver定義ファイル
+	J2EEシステム定義ファイル
+	J2EEリソース定義ファイル
+	Webサーバコネクタ定義ファイル
+	F3FMihs (注)
	+ Webサーバ1
	+ httpd.conf
	+ Webサーバ2
	+ httpd.conf

・ L-ServerがLinuxの場合



注) 配備時にパラメーターを変更するInterstage HTTP Serverを使用する場合、パラメーターパッケージに定義ファイルを含めると、 配備時に自動で更新されます(パラメーターファイルへの定義はありません)。

詳細は、『運用ガイド』の「オペレーティングシステム・ミドルウェア個別処理(L-Server作成時編)」の「Interstage Application Server/ Web Server」の「インストール後の操作」の「4. Interstage HTTP Serverを使用する場合」を参照してください。

2.1.4 出力メッセージ

ありません。

2.1.5 ミドルウェア個別処理(配備後編)

🕑 ポイント

配備時の設定変更について

配備システムにおいて実行されるissethostinfoコマンドでは、J2EE(Servletサービス/EJBサービス)、Java EE、およびCORBAサービス を使用する場合に、以下の情報を配備先の仮想マシンのホスト情報に変更します。

- ・ Interstage動作環境定義ファイルのCorba Host Name
- ・ オブジェクトリファレンス生成時に埋め込むホスト名
- ・ Java EE(Interstage Java EE DASサービス、およびInterstage Java EE Node Agentサービス)に設定されているホスト名

2.1.5.1 Java EEを使用する場合

🚺 参考

Java EEは、Interstage Application Server V9.2.0からの提供機能です。

ハートビートの設定について

IJServerクラスタが作成された環境が配備された場合、ハートビートの設定は無効になっています。

ハートビートを使用する場合には有効にし、ハートビートアドレスを設定してください。

ハートビート設定の詳細については、『Interstage Application Server Java EE運用ガイド』の「グループ管理サービス」を参照してください。

2.1.5.2 Interstage HTTP Serverを使用する場合

すべてのWebサーバの環境定義ファイル(httpd.conf)のディレクティブを、配備先のサーバやシステム構成・運用に合わせて、適切な 値を設定してください。

ディレクティブの詳細については、『Interstage HTTP Server運用ガイド』の「ディレクティブ一覧」を参照してください。

2.2 Interstage Business Process Manager Analytics

2.2.1 ミドルウェア個別処理(L-Server作成時編)

Interstage Business Process Manager Analyticsをインストールする場合、以下の操作が必要です。

2.2.1.1 インストール

『Interstage Business Process Manager Analytics V11.1 導入ガイド』に従って、BPM Analyticsサーバをインストールしてください。

2.2.1.2 インストール後の操作

作成した「L-Server」において「クローニングマスタの採取」を行う前に必要な作業はありません。

2.2.2 テンプレートの登録準備

テンプレートを登録する準備として、以下の作業が必要になります。

- ミドルウェア・パラメーター設定テンプレートをインストールしてください。
- ・ソフトウェア情報の登録(cfmg_addsoft)コマンドで、ソフトウェア情報を登録します。
- ・ソフトウェア設定情報の関連付け(cfmg_attachsoftsetup)コマンドで、ソフトウェア設定情報とソフトウェアの関連付けを設定します。

ソフトウェア情報のファイル名については、「付録A ソフトウェア情報」を、ソフトウェア設定IDについては「付録B 予約済ソフトウェア設定ID」を参照してください。

テンプレートの登録については、以下のマニュアルを参照してください。

- Systemwalker Software Configuration Manager V14g
 『運用ガイド』の「システムテンプレート登録手順」の「ソフトウェア情報」および「ソフトウェア設定情報」
- Systemwalker Software Configuration Manager V14gのソフトウェアパラメーター設定機能(Server View Resource Orchestrator連携編) 「運用の手順」の「L-Platformテンプレートの作成」
- Systemwalker Software Configuration Manager V15gのソフトウェアパラメーター設定ガイド 「運用の手順」の「L-Platformテンプレートの作成」

コマンドの詳細については、以下のマニュアルを参照してください。

- Systemwalker Software Configuration Manager V14g 『リファレンスガイド』の「テンプレート管理コマンド」
- Systemwalker Software Configuration Manager V14gのソフトウェアパラメーター設定機能(ServerView Resource Orchestrator連携編) 「L-Platformテンプレート管理コマンド」
- Systemwalker Software Configuration Manager V15gのソフトウェアパラメーター設定ガイド 「L-Platformテンプレート管理コマンド」

2.2.3 パラメーター設定情報

BPM Analyticsの実行環境の設定

No.	パラメーター (設定項目)	ソフトウェア設定情報ファイル		説明
1	1 ホスト名 <key> キー bpmanalytics.hostname くtype> 型 string <type> マン *** <type> マン *** <type> ** *** <type> ** *** <type> ** *** <type> *** *** <type> *** *** *** *** *** ***</type></type></type></type></type></type></type></key>		bpmanalytics.hostname	Analyticsサーバが動作するホスト名を設定します。
			string	
			#{server.os.computername}	
		<label> ラベル</label>	ホスト名	
2	2 ポート番号 <key> キー bpmanalytics.po <type> 型 number</type></key>		bpmanalytics.portno	Analyticsサーバが動作するWebサーバの ポート番号を設定します。アプリケーション
			number	サーバの設定に依存します。
		<value> 設定必須パラ メーターのデフォ ルト値</value>	80	
		<label> ラベル</label>	ポート番号	

2.2.4 出力メッセージ

出力形式

メッセージID メッセージ本文

メッセージID

各メッセージに一意に付けられたメッセージの識別番号です。

メッセージ本文

メッセージの内容です。

出力メッセージ

BCMD2001

BPM Analytics Server is not installed.

意味

BPM Analyticsサーバがインストールされていません。

対処方法

BPM Analyticsサーバをインストールしてください。

BCMD2002

Necessary configuration file[{0}] is missing.

意味

必要な設定ファイル[{0}]がありません。

{0}:ファイル名

対処方法

BPM Analyticsサーバのインストールが正常に終了していることを確認してください。

BCMD2003

Unknown error has occurred.

意味

不明なエラーが発生しました。

対処方法

スタートアップスクリプトの実行環境に問題があります。

2.2.5 ミドルウェア個別処理(配備後編)

2.2.5.1 運用管理コンソール

サーバ名が変更された場合またはAnalyticsサーバが動作するWebサーバのポート番号に80以外を使用する場合は、運用管理コンソールを用いてサーバ接続情報とセンサー情報を更新する必要があります。

サーバ接続情報の変更

運用管理コンソールで、以下の画面を表示します。

[BPM Analyticsシステム]-[サーバ管理]-[BPM Analytics Server]-[サーバ接続情報]

表示されるURLの情報を配備先の環境に合わせて変更します。

センサー情報の変更

運用管理コンソールで、以下の画面を表示します。

[BPM Analyticsシステム]-[センサー管理]-[(センサー名)]-[接続情報リスト]

表示されるセンサー情報のセンサーURLを配備先の環境に合わせて変更します。

2.2.5.2 コマンド

以下のコマンドを使用する場合でかつAnalyticsサーバが動作するWebサーバのポート番号に80以外を使用する場合は、コマンド内部で環境変数として設定しているポート番号の値を変更する必要があります。

コマンド格納ディレクトリ

[Windows]

<Interstage Business Process Manager Analyticsインストール先>¥bpmm¥bin (例 C:¥ibpmm¥bpmm¥bin)

[Linux]

/opt/FJSVibpma/bin

コマンド名

[Windows]

bpmescalateaction.bat
bpmexport2csv.bat
bpmregisterwef.bat
bpmstart.bat
bpmstat.bat
bpmstop.bat

[Linux]

```
bpmescalateaction.sh
bpmexport2csv.sh
bpmregisterwef.sh
bpmstart.sh
bpmstat.sh
bpmstop.sh
```

ポート番号を設定する環境変数名

BPM_PORT

2.2.5.3 その他【Windows】

サーバ名が変更された場合またはAnalyticsサーバが動作するWebサーバのポート番号に80以外を使用する場合は、Windowsのスタートメニューの[Interstage Business Process Manager Analytics]メニューから表示される、

- ・ ダッシュボード
- ・ 運用管理コンソール

のHTMLリンクを変更する必要があります。

2.3 Interstage Interaction Manager

2.3.1 ミドルウェア個別処理(L-Server作成時編)

Interstage Interaction Managerをインストールする場合、以下の操作が必要です。

2.3.1.1 インストール

『Interstage Interaction Manager V9.1.1 インストールガイド』に従って、Interstage Interaction Manager サーバパッケージをインストール してください。

2.3.1.2 インストール後の操作

作成した「L-Server」において、「クローニングマスタの採取」を行う前に必要な作業はありません。

ポータル機能を利用する場合は、仮想システムの配備後にポータル機能の動作環境の設定を行う必要があります。

2.3.2 テンプレートの登録準備

テンプレートを登録する準備として、以下の作業が必要になります。

- ミドルウェア・パラメーター設定テンプレートをインストールしてください。
- ・ソフトウェア情報の登録(cfmg_addsoft)コマンドで、ソフトウェア情報を登録します。

ソフトウェア情報のファイル名については、「付録A ソフトウェア情報」を参照してください。

テンプレートの登録については、以下のマニュアルを参照してください。

- Systemwalker Software Configuration Manager V14g 『運用ガイド』の「システムテンプレート登録手順」の「ソフトウェア情報」
- Systemwalker Software Configuration Manager V14gのソフトウェアパラメーター設定機能(Server View Resource Orchestrator連携編) 「運用の手順」の「L-Platformテンプレートの作成」
- Systemwalker Software Configuration Manager V15gのソフトウェアパラメーター設定ガイド 「運用の手順」の「L-Platformテンプレートの作成」

コマンドの詳細については、以下のマニュアルを参照してください。

- Systemwalker Software Configuration Manager V14g 『リファレンスガイド』の「テンプレート管理コマンド」
- Systemwalker Software Configuration Manager V14gのソフトウェアパラメーター設定機能(Server View Resource Orchestrator連携編) 「L-Platformテンプレート管理コマンド」
- Systemwalker Software Configuration Manager V15gのソフトウェアパラメーター設定ガイド 「L-Platformテンプレート管理コマンド」

2.3.3 パラメーター設定情報

ありません。

2.3.4 出力メッセージ

ありません。

2.3.5 ミドルウェア個別処理(配備後編)

ありません。

2.4 Interstage List Creator Connector

2.4.1 ミドルウェア個別処理(L-Server作成時編)

Interstage List Creator Connector をインストールする場合、以下の操作が必要です。

インストールの詳細については、『Interstage List Creator Connector ソフトウェア説明書』、『Interstage List Creator 環境設定・帳票運用 編』などを参照してください。

2.4.1.1 インストール

『Interstage List Creator Connector ソフトウェア説明書』の「インストール手順」に従ってインストールしてください。

2.4.1.2 インストール後の操作

作成した「L-Server」において「クローニングマスタの採取」を行う前に、以下を行う必要があります。

[Windows]

コネクタ連携機能のセットアップ バッチファイルを実行して、コネクタ連携機能のセットアップを行ってください。

G 注意

コネクタ連携機能のセットアップを行うと、コネクタ連携機能のサービスが起動されます。ただし、コンピュータ再起動時には自動的に サービスは起動されません。

コンピュータの起動時に自動的にサービスを起動したい場合は、サービスの設定を変更してください。

コネクタ連携機能のセットアップの詳細については、『Interstage List Creator 環境設定・帳票運用編』の「コネクタ連携機能の環境設定」を参照してください。

・帳票資源を配置する場合

「帳票定義情報」などの帳票資源を含めたシステムを配備する場合には、帳票資源を帳票格納ディレクトリなどに配置しておきます。 帳票資源の配置については、『Interstage List Creator 環境設定・帳票運用編』の「帳票資源の準備と配置」を参照してください。

- ・ L-Serverイメージ作成前処理
 - コネクタ連携機能のサービスの停止

コネクタ連携機能のセットアップを行った場合、コネクタ連携機能のサービスを停止してください。

コネクタ連携機能のサービスを停止する方法については、『Interstage List Creator 環境設定・帳票運用編』の「コネクタ連携機能の環境設定」を参照してください。

[Linux]

コネクタ連携機能のセットアップシェルを実行して、コネクタ連携機能のセットアップを行ってください。

コネクタ連携機能のセットアップの詳細については、『Interstage List Creator 環境設定・帳票運用編』の「コネクタ連携機能の環境設定」を参照してください。

• 帳票資源を配置する場合

「帳票定義情報」などの帳票資源を含めたシステムを配備する場合には、帳票資源を帳票格納ディレクトリなどに配置しておきます。 帳票資源の配置については、『Interstage List Creator 環境設定・帳票運用編』の「帳票資源の準備と配置」を参照してください。

- ・ L-Serverイメージ作成前処理
 - 1. コネクタ連携機能のサービスの停止

コネクタ連携機能のセットアップを行った場合、コネクタ連携機能のサービスを停止してください。

コネクタ連携機能のサービスを停止する方法については、『Interstage List Creator 環境設定・帳票運用編』の「コネクタ連携 機能の環境設定」を参照してください。

2. List Creator サービスの停止

List Creator サービスを停止してください。

List Creator サービスを停止する方法については、『Interstage List Creator 環境設定・帳票運用編』の「List Creatorの環境設定」を参照してください。

2.4.2 テンプレートの登録準備

テンプレートを登録する準備として、以下の作業が必要になります。

- ミドルウェア・パラメーター設定テンプレートをインストールしてください。
- ・ソフトウェア情報の登録(cfmg_addsoft)コマンドで、ソフトウェア情報を登録します。
- ・ソフトウェア設定情報の関連付け(cfmg_attachsoftsetup)コマンドで、ソフトウェア設定情報とソフトウェアの関連付けを設定します。

ソフトウェア情報のファイル名については、「付録Aソフトウェア情報」を、ソフトウェア設定IDについては「付録B予約済ソフトウェア設定ID」を参照してください。

テンプレートの登録については、以下のマニュアルを参照してください。

- Systemwalker Software Configuration Manager V14g 『運用ガイド』の「システムテンプレート登録手順」の「ソフトウェア情報」および「ソフトウェア設定情報」
- Systemwalker Software Configuration Manager V14gのソフトウェアパラメーター設定機能(ServerView Resource Orchestrator連携編) 「運用の手順」の「L-Platformテンプレートの作成」
- Systemwalker Software Configuration Manager V15gのソフトウェアパラメーター設定ガイド 「運用の手順」の「L-Platformテンプレートの作成」

コマンドの詳細については、以下のマニュアルを参照してください。

- Systemwalker Software Configuration Manager V14g 『リファレンスガイド』の「テンプレート管理コマンド」
- ・ Systemwalker Software Configuration Manager V14gのソフトウェアパラメーター設定機能(Server View Resource Orchestrator連携編) 「L-Platformテンプレート管理コマンド」
- ・ Systemwalker Software Configuration Manager V15gのソフトウェアパラメーター設定ガイド「L-Platformテンプレート管理コマンド」



Interstage List Creator Connectorのソフトウェア設定IDは、Interstage List Creatorのものを使用してください。

2.4.3 パラメーター設定情報

注意

.

Interstage List Creator Connectorのパラメーター設定情報は、Interstage List Creatorと共通になっています。 一覧に記載されていないパラメーターは、Interstage List Creator Connectorでは設定してもエラーとなることはありませんが、有効とは なりません。

帳票出力全般【Windows】

No.	パラメーター (設定項目)	ソフト	ウェア設定情報ファイル	説明
1	1 帳票出力時のエ <key></key> ラー通知 キー		formoutput.informError	帳票出力時に発生したエラーの通知方 法を指定します。
		<type> 型</type>	string	・イベントログに出力する場合: 「EVTLOG」
<value> なし 設定必須パラ メーターのデ フォルト値</value>		なし	・メッセージボックスに表示させる場合: 「ERRMSG」	
		<label> ラベル</label>	帳票出力時のエラーメッセージの 通知方法	
2	文字コード系	<key> キー</key>	inputdata.charcode	入力データの文字コードの初期値につい て、以下のどれかを指定します。
		<type> 型</type>	string	•SHIFTJIS •UCS2LE
		<value> 設定必須パラ メーターのデ フォルト値</value>	なし	•UCS2BE •UTF8
		<label> ラベル</label>	入力データの文字コード系の初期 値	

トラブル発生時の調査用ログ【Windows】

No.	小分類	パラメーター (設定項目)	ソフトウェア設定情報ファイル		説明
1	トレース ログ	ファイルサイズ	<key> キー</key>	tracelog.filesize	トレースログのファイルサイズを「64 ~ 99999」KBの範囲で指定します。
			<type> 型</type>	number	

No.	小分類	パラメーター (設定項目)	יכע	トウェア設定情報ファイル	説明
			<value> 設定必須パ ラメーターの デフォルト値</value>	なし	
			<label> ラベル</label>	トレースログのファイルサイズ	
2	トレース ログ	自動退避設定	<key> キー</key>	tracelog.filesave	トレースログのファイルがいっぱい になったときに、ファイルを自動で
			<type> 型</type>	boolean	退避するかどうかを指定します。
			<value> 設定必須パ ラメーターの デフォルト値</value>	tal	
			<label> ラベル</label>	トレースログを自動退避する指定	
3	トレース ログ	退避ファイル数	<key> キー</key>	tracelog.filesavecount	トレースログを自動退避する指定を した場合に、退避するログファイル
			<type> 型</type>	number	数を「1~7」の範囲で指定します。
			<value> 設定必須パ ラメーターの デフォルト値</value>	なし	
			<label> ラベル</label>	退避するトレースログ数	

コネクタ連携機能【Windows】

No.	小分類	パラメーター (設定項目)	ソフトウ	ェア設定情報ファイル	説明
1	アプリ ケーショ	RMI用ポート番 号	<key> キー</key>	connector.aps.rmiPort	内部のRMI通信で使用するTCP/ IPポート番号を指定します。
	ンサーバ		<type> 型</type>	number	RMI 通信は、アプリケーション サーバ側で動作します。
			<value> 設定必須パラ メーターのデ フォルト値</value>	なし	
			<label> ラベル</label>	RMI用ポート番号	
2	アプリ ケーショ	帳票出力待ち合 わせ時間	<key> キー</key>	connector.aps.timeout	帳票出力サーバでのList Creator の帳票出力完了の待ち合わせ時
	ンサー		<type></type>	number	間を秒単位で設定します。
	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		型		指定した時間内に帳票出力が完
			<value> 設定必須パラ</value>	なし	」しない場合は、出力完了の待ち合わせを打ち切ります。

No.	小分類	パラメーター (設定項目)	ソフトウェア設定情報ファイル		説明
			メーターのデ フォルト値		
			<label> ラベル</label>	帳票出力待ち合わせ時間	
3	アプリ ケーショ	送信先ポート番 号	<key> キー</key>	connector.aps.transferPort	帳票出力サーバの受信ポート番 号を指定します。
	ンサー バ		<type> 型</type>	number	帳票出力サーバの受信ポート番 号の設定値と合わせる必要があり
			<value> 設定必須パラ メーターのデ フォルト値</value>	なし	ます。
			<label> ラベル</label>	送信先ポート番号	
4	アプリ ケーショ	ネットワーク間欠 転送指定	<key> キー</key>	connector.aps. partitionedTransfer	ネットワーク帯域を圧迫しないよう にファイルを転送(間欠転送)する
	ンサー バ		<type> 型</type>	boolean	場合に指定します。
			<value> 設定必須パラ メーターのデ フォルト値</value>	なし	
			<label> ラベル</label>	ネットワーク間欠転送指定	
5	アプリ ケーショ	ネットワーク間欠 転送間隔	<key> キー</key>	connector.aps.partitionedTrans ferInterval	間欠転送が有効の場合に、その 間隔をミリ秒単位で指定します。
	ンサーバ		<type> 型</type>	number	
			<value> 設定必須パラ メーターのデ フォルト値</value>	<i>tzL</i>	
			<label> ラベル</label>	ネットワーク間欠転送間隔	
6	アプリ ケーショ	エラーリトライ指 定	<key> キー</key>	connector.aps.errorRetry	帳票出力サーバへの帳票資源や データファイルなどの転送や帳票
	ンサー バ		<type> 型</type>	boolean	出力サーバで生成したファイルの 取得に失敗した場合のリトライ設
			<value> 設定必須パラ メーターのデ フォルト値</value>	なし	· Æ211V · & 9 。
			<label> ラベル</label>	エラーリトライ指定	
7	アプリ ケーショ ンサー バ	エラーリトライ回 数	<key> キー</key>	connector.aps.errorRetryCount	転送/取得エラー時に、リトライす る回数を指定します。

No.	小分類	パラメーター (設定項目)	ソフトウェア設定情報ファイル		説明
			<type> 型</type>	number	
			<value> 設定必須パラ メーターのデ フォルト値</value>	なし	
			<label> ラベル</label>	エラーリトライ回数	
8	アプリ ケーショ	エラーリトライ間 隔	<key> キー</key>	connector.aps.errorRetryInterv al	転送/取得エラー時に、リトライす る間隔を指定します。ミリ秒単位
	ンサー バ		<type> 型</type>	number	で指定します
			<value> 設定必須パラ メーターのデ フォルト値</value>	なし	
			<label> ラベル</label>	エラーリトライ間隔	
9	アプリ ケーショ	アプリ 転送タイムアウト ケーショ 時間 ンサー バ	<key> キー</key>	connector.aps.bufferTimeout	アプリケーションサーバから帳票 出力サーバへ接続後に、帳票 サーバでの接続時間がかかる場 合や応答がなかった場合の接続 中のタイムアウト時間を<りか単位
	ンサーバ		<type> 型</type>	number	
			<value> 設定必須パラ メーターのデ フォルト値</value>	tal	で指定します。
			<label> ラベル</label>	転送タイムアウト時間	
10	アプリ ケーショ	転送タイムアウト リトライ回数	<key> キー</key>	connector.aps.bufferRetryCou nt	接続中のタイムアウトが発生した ときのリトライ回数を指定します。
	ンサー バ		<type> 型</type>	number	
			<value> 設定必須パラ メーターのデ フォルト値</value>	<i>tzL</i>	
			<label> ラベル</label>	転送タイムアウトリトライ回数	
11	アプリ ケーショ	転送タイムアウト リトライ間隔	<key> キー</key>	connector.aps.bufferRetryInter val	接続中のタイムアウトが発生した ときのリトライ間隔をミリ秒単位で
	ンサー バ		<type> 型</type>	number	指定します。
			<value> 設定必須パラ メーターのデ フォルト値</value>	なし	

No.	小分類	パラメーター (設定項目)	ソフトウェア設定情報ファイル		説明
			<label> ラベル</label>	転送タイムアウトリトライ間隔	
12	アプリ ケーショ	コネクションリトラ イ回数	<key> キー</key>	connector.aps.connectionRetry Count	接続エラー時に、リトライする回数 を設定します。
	ンサー バ		<type> 型</type>	number	
			<value> 設定必須パラ メーターのデ フォルト値</value>	なし	
			<label> ラベル</label>	コネクションリトライ回数	
13	アプリ ケーショ	コネクションリトラ イ間隔	<key> キー</key>	connector.aps.connectionRetry Interval	接続エラー時に、リトライする間隔 を設定します。
ンバ	ンサーバ	<type> 型</type>	number		
			<value> 設定必須パラ メーターのデ フォルト値</value>	なし	
			<label> ラベル</label>	コネクションリトライ間隔	

トラブル発生時の調査用ログ【Linux】

No.	小分類	パラメーター (設定項目)	ソフトウェア設定情報ファイル		説明
1	トレースロ グ	ファイルサイズ	<key> キー</key>	tracelog.filesize	トレースログのファイルサイズを「64 ~99999」KBの範囲で指定します。
			<type> 型</type>	number	
		く 部 ラ ラ	<value> 設定必須パ ラメーターの デフォルト値</value>	なし	
			<label> ラベル</label>	トレースログのファイルサイズ	

コネクタ連携機能【Linux】

No.	小分類	パラメーター (設定項目)	ソフトウェア設定情報ファイル		説明
1	アプリ ケーショ	RMI用ポート番 号	<key> キー</key>	connector.aps.rmiPort	内部のRMI通信で使用するTCP/ IPポート番号を指定します。
	ンサーバ		<type> 型</type>	number	RMI 通信は、アプリケーションサー バ側で動作します。

No.	小分類	パラメーター (設定項目)	ソフトウェア設定情報ファイル		説明
			<value> 設定必須パラ メーターのデ フォルト値</value>	なし	
			<label> ラベル</label>	RMI用ポート番号	
2	アプリ ケーショ	アプリケーション 実行コマンド	<key> キー</key>	connector.aps.applicationRoot	chmod コマンドがあるディレクトリを 指定します。
	ンサー バ		<type> 型</type>	string	通常は変更する必要はありません。
			<value> 設定必須パラ メーターのデ フォルト値</value>	なし	
			<label> ラベル</label>	アプリケーション実行コマンド	
3	アプリ ケーショ	帳票出力待ち合 わせ時間	<key> キー</key>	connector.aps.timeout	帳票出力サーバでのList Creator の帳票出力完了の待ち合わせ時
	ンサー バ	·	<type> 型</type>	number	間を秒単位で設定します。 指定した時間内に帳票出力が完了
			<value> 設定必須パラ メーターのデ フォルト値</value>	なし	しない場合は出力完了の待ち合わ せを打ち切ります。
			<label> ラベル</label>	帳票出力待ち合わせ時間	
4	アプリ ケーショ	送信先ポート番 号	<key> キー</key>	connector.aps.transferPort	帳票出力サーバの受信ポート番号 を指定します。
	ンサー バ		<type> 型</type>	number	帳票出力サーバの受信ポート番号 の設定値と合わせる必要があります。
			<value> 設定必須パラ メーターのデ フォルト値</value>	なし	
			<label> ラベル</label>	送信先ポート番号	
5	アプリ ケーショ	ネットワーク間欠 転送指定	<key> キー</key>	connector.aps.partitionedTrans fer	ネットワーク帯域を圧迫しないよう にファイルを転送(間欠転送)する
	ンサー バ		<type> 型</type>	boolean	場合に指定します。
			<value> 設定必須パラ メーターのデ フォルト値</value>	なし	
			<label> ラベル</label>	ネットワーク間欠転送指定	

No.	小分類	パラメーター (設定項目)	ソフトウェア設定情報ファイル		説明
6	アプリ ケーショ	ネットワーク間欠 転送間隔	<key> キー</key>	connector.aps.partitionedTrans ferInterval	間欠転送が有効の場合に、その間 隔をミリ秒単位で指定します。
	ンサー バ		<type> 型</type>	number	
			<value> 設定必須パラ メーターのデ フォルト値</value>	なし	
			<label> ラベル</label>	ネットワーク間欠転送間隔	
7	アプリ ケーショ	エラーリトライ指 定	<key> キー</key>	connector.aps.errorRetry	帳票出力サーバへの帳票資源や データファイルなどの転送や帳票
	ンサーバ	Ψ	<type> 型</type>	boolean	出力サーバで生成したファイルの 取得に失敗した場合のリトライ設定 を行います
			<value> 設定必須パラ メーターのデ フォルト値</value>	<i>た</i> よし	で11v,ます。
			<label> ラベル</label>	エラーリトライ指定	
8	アプリ ケーショ ンサー バ	エラーリトライ回 對	<key> キー</key>	connector.aps.errorRetryCount	転送/取得エラー時に、リトライする 回数を指定します。
			<type> 型</type>	number	
			<value> 設定必須パラ メーターのデ フォルト値</value>	<i>た</i> よし	
			<label> ラベル</label>	エラーリトライ回数	
9	アプリ ケーショ	[。] リ エラーリトライ間 -ショ 隔 -ー	<key> キー</key>	connector.aps. errorRetryInterval	転送/取得エラー時に、リトライする 間隔を指定します。ミリ秒単位で指
	ンサー バ		<type> 型</type>	number	定します。
			<value> 設定必須パラ メーターのデ フォルト値</value>	なし	
			<label> ラベル</label>	エラーリトライ間隔	
10	アプリ ケーショ ンサー バ	プリ 転送タイムアウト ーショ 時間 ゲサー	<key> キー</key>	connector.aps.bufferTimeout	アプリケーションサーバから帳票出 カサーバへ接続後に、帳票サーバ
			<type> 型</type>	number	での接続時間がかかる場合や応答 がなかった場合の接続中のタイム アウト時間をミリ秒単位で指定します
			<value> 設定必須パラ</value>	なし	

No.	小分類	パラメーター (設定項目)	ソフトウェア設定情報ファイル		説明
			メーターのデ フォルト値		
			<label> ラベル</label>	転送タイムアウト時間	
11	アプリ ケーショ	転送タイムアウト リトライ回数	<key> キー</key>	connector.aps.bufferRetryCou nt	接続中のタイムアウトが発生したと きのリトライ回数を指定します。
	ンサー バ		<type> 型</type>	number	
			<value> 設定必須パラ メーターのデ フォルト値</value>	なし	
			<label> ラベル</label>	転送タイムアウトリトライ回数	
12	アプリ ケーショ	転送タイムアウト リトライ間隔	<key> キー</key>	connector.aps.bufferRetryInter val	接続中のタイムアウトが発生したと きのリトライ間隔をミリ秒単位で指定
	ンサー バ	-	<type> 型</type>	number	します。
			<value> 設定必須パラ メーターのデ フォルト値</value>	なし	
			<label> ラベル</label>	転送タイムアウトリトライ間隔	
13	アプリ ケーショ	コネクションリトラ イ回数	<key> キー</key>	connector.aps.connectionRetry Count	接続エラー時に、リトライする回数 を設定します。
	ンサー バ		<type> 型</type>	number	
			<value> 設定必須パラ メーターのデ フォルト値</value>	なし	
			<label> ラベル</label>	コネクションリトライ回数	
14	アプリ ケーショ	コネクションリトラ イ間隔	<key> キー</key>	connector.aps.connectionRetry Interval	接続エラー時に、リトライする間隔 を設定します。
	ンサー バ			number	
			<value> 設定必須パラ メーターのデ フォルト値</value>	なし	
			<label> ラベル</label>	コネクションリトライ間隔	

2.4.4 出力メッセージ

出力形式

LC メッセージレベル メッセージID メッセージ本文

LC

本製品のメッセージを出力します。

メッセージレベル

以下のどれかです。

- INFO:情報レベルのメッセージです。
- WARNING:警告レベルのメッセージです。
- ERROR: 誤りレベルのメッセージです。
- FATAL: 致命的レベルのメッセージです。

メッセージID

各メッセージに一意に付けられたメッセージの識別番号です。

メッセージ本文

メッセージの内容です。

出力メッセージ【Windows】

0001

It finds the mistake in the parameter when starting. [%1][%2]

メッセージレベル

WARNING

意味

```
指定した値に誤りがあるため、設定できませんでした。
%1:keyタグの値
%2:valueタグの値
```

対処方法

パラメーター情報ファイルの該当するkeyタグおよびvalueタグの値を見直してください。

0002

Can not get the information required to set up. メッセージレベル ERROR

意味

設定に必要な情報が取得できなかったため、設定できませんでした。

対処方法

製品が正しくインストールされていない可能性があります。製品が正しくインストールされているかを確認してください。

0003

An error occurred when updating a file. [%1][%2]

メッセージレベル

ERROR

意味

環境設定ファイルの更新に失敗しました。

%1:ファイル名 %2:keyタグの値

対処方法

ディスクの空き容量が不足していないか確認してください。

8001

An unexpected error occurred.[%1][%2]

メッセージレベル

ERROR

意味

予期しないエラーが発生したため、値の設定ができませんでした。

%1:keyタグの値 %2:valueタグの値

対処方法

製品が正しくインストールされていない可能性があります。製品が正しくインストールされているかを確認してください。

出力メッセージ【Linux】

0001

It finds the mistake in the parameter when starting.[%1][%2]

メッセージレベル

WARNING

意味

指定した値に誤りがあるため、設定できませんでした。

%1:keyタグの値 %2:valueタグの値

対処方法

パラメーター情報ファイルの該当するkeyタグおよびvalueタグの値を見直してください。

0081

File is not writable: %1

メッセージレベル

ERROR

意味

ファイルに書き込み権限がありません。 %1:ファイル名

対処方法

ファイルに書き込み権限があるか確認してください。

0082

File is not executable: %1

メッセージレベル

ERROR

意味

ファイルに実行権限がありません。 %1:ファイル名

対処方法

ファイルに実行権限があるか確認してください。

0083

Since there is no process can change the required files.[%1][%2]

メッセージレベル

WARNING

意味

環境設定コマンドが見つからないため、設定できませんでした。

%1:コマンド名 %2:keyタグの値

対処方法

製品が正しくインストールされているか確認してください。

1001

Failed to change size of trace log.

メッセージレベル

ERROR

意味

```
トレースログのファイルサイズ変更に失敗しました。
```

対処方法

パラメーター情報ファイルの"tracelog.filesize"パラメーターを見直してください。

1101

Failed message notification of configuration changes to the length of the item does not fit the data.

メッセージレベル

ERROR

意味

項目長にデータが収まらない場合のメッセージ通知動作の設定変更に失敗しました。

対処方法

パラメーター情報ファイルのoutput.data.outsidefieldlengthパラメーターを見直してください。

1201

Failed message notification of configuration changes in the region if the item does not fit the data.

メッセージレベル

ERROR

意味

項目の領域内にデータが収まらない場合のメッセージ通知動作の設定変更に失敗しました。

対処方法

パラメーター情報ファイルのoutput.data.outsidefieldパラメーターを見直してください。

1301

Failed to modify font settings of the output character.

メッセージレベル

ERROR

意味

出力文字の字体の設定変更に失敗しました。

対処方法

パラメーター情報ファイルのoutput.jisglyphパラメーターを見直してください。

8000

An error occurred when updating a file.[%1][%2]

メッセージレベル

ERROR

意味

環境設定ファイルの更新に失敗しました。

%1:ファイル名 %2:keyタグの値

対処方法

ディスクの空き容量が不足していないか確認してください。

2.4.5 ミドルウェア個別処理(配備後編)

ありません。

2.5 Interstage Service Integrator

2.5.1 ミドルウェア個別処理(L-Server作成時編)

Interstage Service Integratorをインストールする場合、以下の操作が必要です。

2.5.1.1 インストール時

Interstage Service Integratorのインストーラを使用してインストールしてください。

[Windows]

Interstage Service Integrator 統合インストーラを使用し、セットアップタイプに「サーバ」を選択してインストールしてください。

【Linux】

インストールシェルスクリプトを使用しインストールしてください。

詳細は、『Interstage Service Integrator 導入ガイド』を参照してください。

2.5.1.2 インストール後の操作

『運用ガイド』の「オペレーティングシステム・ミドルウェア個別処理(L-Server作成時編)」-「Interstage Application Server/Web Server」を参照してください。

2.5.2 テンプレートの登録準備

テンプレートを登録する準備として、以下の作業が必要になります。

- ミドルウェア・パラメーター設定テンプレートをインストールしてください。
- ・ソフトウェア情報の登録(cfmg_addsoft)コマンドで、ソフトウェア情報を登録します。
- ・ ソフトウェア設定情報の関連付け(cfmg_attachsoftsetup)コマンドで、ソフトウェア設定情報とソフトウェアの関連付けを設定します。

ソフトウェア情報のファイル名については、「付録A ソフトウェア情報」参照してください。

テンプレートの登録については、以下のマニュアルを参照してください。

- Systemwalker Software Configuration Manager V14g
 『運用ガイド』の「システムテンプレート登録手順」の「ソフトウェア情報」および「ソフトウェア設定情報」
- Systemwalker Software Configuration Manager V14gのソフトウェアパラメーター設定機能(Server View Resource Orchestrator連携編) 「運用の手順」の「L-Platformテンプレートの作成」
- Systemwalker Software Configuration Manager V15gのソフトウェアパラメーター設定ガイド 「運用の手順」の「L-Platformテンプレートの作成」

コマンドの詳細については、以下のマニュアルを参照してください。

- Systemwalker Software Configuration Manager V14g 『リファレンスガイド』の「テンプレート管理コマンド」
- Systemwalker Software Configuration Manager V14gのソフトウェアパラメーター設定機能(Server View Resource Orchestrator連携編) 「L-Platformテンプレート管理コマンド」
- Systemwalker Software Configuration Manager V15gのソフトウェアパラメーター設定ガイド 「L-Platformテンプレート管理コマンド」

2.5.3 パラメーター設定情報

No.	パラメーター (設定項目)	ソフトウェア設定情報ファイル		説明
1	ホスト名	<key> キー</key>	hostname	ホスト名を設定します。
		<type> 型</type>	string	

No.	パラメーター (設定項目)	ソフトウェ	説明	
		<value> 設定必須パラメーター のデフォルト値</value>	#{server.os.computername}	
		<label> ラベル</label>	ホスト名	
2	IPアドレス	<key> キー</key>	ipaddress	IPアドレスを設定します。
		<type> 型</type>	string	
		<value> 設定必須パラメーター のデフォルト値</value>	#{server.nic.ipaddress}	
		<label> ラベル</label>	IPアドレス	

2.5.4 出力メッセージ

ありません。

2.5.5 ミドルウェア個別処理(配備後編)

Interstage Service Integratorの環境をカスタマイズする場合、配備後にInterstage Service Integratorの環境設定ファイルを編集してください。

詳細は、『Interstage Service Integrator 導入ガイド』および『Interstage Service Integrator 運用ガイド』を参照してください。 また、『運用ガイド』の「オペレーティングシステム・ミドルウェア個別処理(配備後編)」-「Interstage Application Server/Web Server」も参照してください。

付録A ソフトウェア情報

本製品の出荷後に追加されたソフトウェア情報について、以下に示します。

ソフトウェア名称	OS	バージョン	ソフトウェア情報ファイル名
Interstage Application Server Standard-J Edition	Windows	V10.0.0	ISAPS_SJE_10.0.0_WIN.xml
Interstage Application Server Enterprise Edition	Windows	V10.0.0	ISAPS_EE_10.0.0_WIN.xml
Interstage Application Server Standard-J Edition	Windows64	V10.0.0	ISAPS_SJE_10.0.0_WIN64.xml
Interstage Application Server Enterprise Edition	Windows64	V10.0.0	ISAPS_EE_10.0.0_WIN64.xml
Interstage Application Server Standard-J Edition	Windows	V10.1.0	ISAPS_SJE_10.1.0_WIN.xml
Interstage Application Server Enterprise Edition	Windows	V10.1.0	ISAPS_EE_10.1.0_WIN.xml
Interstage Application Server Standard-J Edition	Linux	V9.3.1	ISAPS_SJE_9.3.1_LINUX.xml
Interstage Application Server Enterprise Edition	Linux	V9.3.1	ISAPS_EE_9.3.1_LINUX.xml
Interstage Application Server Standard-J Edition	Linux64	V9.3.1	ISAPS_SJE_9.3.1_LINUX64.xml
Interstage Application Server Enterprise Edition	Linux64	V9.3.1	ISAPS_EE_9.3.1_LINUX64.xml
Interstage Application Server Standard-J Edition	Linux	V10.0.0	ISAPS_SJE_10.0.0_LINUX.xml
Interstage Application Server Enterprise Edition	Linux	V10.0.0	ISAPS_EE_10.0.0_LINUX.xml
Interstage Application Server Standard-J Edition	Linux64	V10.0.0	ISAPS_SJE_10.0.0_LINUX64.xml
Interstage Application Server Enterprise Edition	Linux64	V10.0.0	ISAPS_EE_10.0.0_LINUX64.xml
Interstage Business Process Manager Analytics	Windows	V11.1	IBPMA_11.1.0_WIN.xml
Interstage Business Process Manager Analytics	Windows64	V11.1	IBPMA_11.1.0_WIN64.xml
Interstage Business Process Manager Analytics	Linux	V11.1	IBPMA_11.1.0_LINUX.xml
Interstage Business Process Manager Analytics	Linux64	V11.1	IBPMA_11.1.0_LINUX64.xml
Interstage Interaction Manager	Windows	V9.1.1	IIM_9.1.1_WIN.xml
Interstage Interaction Manager	Linux	V9.1.1	IIM_9.1.1_LINUX.xml
Interstage List Creator Connector	Windows	V9.2.0	LC-CO_9.2.0_WIN.xml
Interstage List Creator Connector	Windows64	V9.2.0	LC-CO_9.2.0_WIN64.xml
Interstage List Creator Connector	Linux64	V9.1.0	LC-CO_9.1.0_LINUX64.xml
Interstage Service Integrator Standard Edition	Windows	V9.2	ISI_SE_9.2_WIN.xml
Interstage Service Integrator Standard Edition	Windows64	V9.2	ISI_SE_9.2_WIN64.xml
Interstage Service Integrator Standard Edition	Linux	V9.2	ISI_SE_9.2_RHEL.xml
Interstage Service Integrator Standard Edition	Linux64	V9.2	ISI_SE_9.2_RHEL64.xml
Interstage Web Server	Windows	V10.0.0	ISAPS_WEB_10.0.0_WIN.xml
Interstage Web Server	Windows	V10.1.0	ISAPS_WEB_10.1.0_WIN.xml
Interstage Web Server	Linux	V10.0.0	ISAPS_WEB_10.0.0_LINUX.xml

なお、Interstage Application Server/Interstage Web Server製品のうち、以下のVLについては、『リファレンスガイド』の「登録済ソフトウェアID」を参照ください。

- Interstage Application Server : V9.0.0 \sim V9.3.0
- + Interstage Web Server : V9.0.0 \sim V9.1.0

付録B 予約済ソフトウェア設定ID

本製品の出荷後に追加された予約済ソフトウェア設定IDについて、以下に示します。

予約済ソフト ウェア設定ID	ソフトウェア名	OS
RS00000100	Interstage List Creator	Windows
RS00000101	Interstage List Creator	Linux
RS00000300	Interstage Business Process Manager Analytics	Windows
RS00000301	Interstage Business Process Manager Analytics	Linux